

教 科	農 業	科 目	農 業 と 環 境	単位数	4
学 年	1 年	教科書	農 業 と 環 境 （実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	な し		

学習目標	①農業作物の播種から収穫までを自らの手で行い、栽培管理の方法及び生理生体的特性について、体験を通して身に付けます。 ②農業作物の栽培環境について、理解します。 ③自然環境問題について、理解します。 ④プロジェクト学習を通して、主体的に学習に取り組む態度を身に付けます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業と環境を学ぶ	・私たちの暮らしと農業との関りについて学習し、その関係性を理解します。 ・学校農業クラブ活動について学習し、クラブ員としての自覚を養います。
	2 栽培と飼育の基礎 ・農業技術検定3級の学習	・トマトの栽培学習を通して、農作物栽培の基礎基本や栽培環境を学習します。 ・農業技術検定3級の取得を目指して学習します。
2	3 栽培・飼育と環境のプロジェクト	・グループで計画を立てて、ダイコン、ハクサイの栽培プロジェクトに挑戦します。 ・ダイコン、ハクサイの栽培プロジェクト学習を通して、農業学習におけるプロジェクト学習の役割を理解します。
3	4 私たちの暮らしと農業・農村	・グループで農業や環境に関する諸問題の解決に向けたミニプロジェクトに挑戦し、農業と環境に関する理解を深めます。 ・自然環境と農業技術の特徴を理解します。 ・農業や農村をとりまく課題を理解し、これからの農業・農村のあり方を理解します。
課題	①予習・復習…実習内容の予習、実習後の記録を毎回丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…トマト栽培プロジェクトのレポートを提出します。 ③冬休み課題…ダイコン、ハクサイの栽培プロジェクトのレポートを提出します。 ④その他…適宜、調査等を実施して結果を提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業と環境を学ぶ	・私たちの暮らしと農業との関係を理解している。 ・農業クラブの活動や組織について理解し、クラブ員としての自覚が身に付いている。	・自分が考えた暮らしと農業との関係を他社へ伝えることができる。 ・農業クラブ員として農業クラブ活動に積極的に参加しようとしている。	・私たちの暮らしと農業との関係を見出そうとしている。 ・身に付けた知識をもとに、自ら農作物の栽培管理に取り組もうとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容、実習への取組等	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	実習への取組、レポート、発問への対応等
栽培と飼育の基礎	・農作物栽培の基礎基本や栽培環境について理解している。	・農作物栽培において発生する諸問題の解決に取り組んでいる。	・農作物栽培を継続的に行い、協働的に活動しようとしている。

評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容、実習への取組等	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	実習への取組、レポート、発問への対応等
栽培・飼育と環境のプロジェクト	・農作物の特性やその管理方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 ・プロジェクトの進め方を理解し身に付けている。 ・プロジェクト学習の意義を確認するとともに、その目的を理解している。	・農作物栽培についての学習をもとに判断し、課題解決に向けた取り組みを行おうとしている。 ・グループの一員として課題解決に取り組んでいる。 ・ノートやレポートに成果を適切にまとめることができる。	・プロジェクト学習に必要な情報収集を主体的に行おうとしている。 ・グループ活動において、自らの意見を伝え、班員と協力してまとめを完成させようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容、実習への取組等	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	実習への取組、レポート、ミニプロジェクト発表会、発問への対応等
私たちの暮らしと農業・農村	・農作物栽培に関わる環境について理解している。 ・農業や農村を取り巻く課題を理解し、これからの農業・農村のあり方を理解する。	・農業や農村を取り巻く課題の解決に向けて自らの考えを発表できる。	・農業や農村を取り巻く課題解決に主体的に取り組むことができる。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容、実習への取組等	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	レポート、発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	3
学 年	1 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①園芸作物（果樹・草花・野菜）の栽培を体験的に学びます。 ②作物栽培に関する初歩的な技術を身に付けます。 ③農業経営の実践的能力の基礎を身に付けます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 オリエンテーション	・1年生の間は「草花」「野菜」「果樹」の3部門をローテーションで実施し、総合実習で何を学ぶのか、農場でどのようなものを栽培しているかを理解します。
	2 農具の名称と使用法	・果樹・草花・野菜の部門で用いる農具の名称や使い方を学習します。
	3 苗の育苗、定植準備、誘引、袋掛け	・果樹ではブドウの誘引や袋掛け、草花や野菜では日々の管理・収穫等の作業を理解します。
2	4 播種・栽培	・草花や野菜では、播種前の準備及び栽培、果樹では肥培管理や摘果作業を体験します。
	5 病虫害と防除	・代表的な病虫害の名称とその防除方法について学習します。
	6 収穫・調整、農業祭の準備、販売	・果樹や野菜では収穫や選別・調整、草花では販売物の準備や調整を体験します。
3	7 施設管理・せん定	・果樹では、施設栽培を学習し、柑橘類のせん定作業を体験します。
	8 播種準備、播種、鉢上げ	・草花・野菜では、播種、育苗、鉢上げなどの苗づくりを体験します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…指定された日に部門各1回、各3時間の実習をします。 ③冬休み課題…指定された日に部門各1回、各3時間の実習をします。 ④その他…年2回、意見作文・農業鑑定競技があり、まとめた作品を提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・季節の作業の目的が理解できている。 ・自分たちが栽培している作目を識別できる。 ・作業を正確かつ丁寧におこなうことができる。 ・器具を正しく利用することができる。	・実習ノートに実習内容等が正確に記録されており、自分の考察が加えられている。 ・作業を効率よく行うことができる。	・集合・移動が迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 ・実習に積極的に参加できる。 ・友人と協力して作業が行える。 ・植物に対して愛情を持って接することができる。
評価方法	・定期考査、農業鑑定競技や毎回の実習への取組の記録。	・実習ノート・レポート等の提出物が内容の基準をクリアし、期限までに提出できる。 ・毎回の実習に対する取組の記録。	・毎回の実習に対する取組の記録(出欠・服装等を含む)。 ・期日までに提出物を出すことができる。
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。	・農業クラブ意見発表の原稿に、自分の考えをまとめて提出することができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。

評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・意見発表への取組	・期日までに提出物を出すことができる。 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において「定期考査」「課題やワークシート、ノートの提出状況」「授業への取組」「出席状況」等をもとに、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農 業 と 情 報	単 位 数	2
学 年	1 年	教科書	農 業 と 情 報 （実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	日本語ワープロ検定試験模擬問題集、情報処理検定試験模擬問題集		

学習目標	①農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけます。 ②農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	第1章 私たちの生活と農業の情報化	・私たちの生活における情報とメディアの特徴を学習し、適切な情報活用について理解を深めます。 ・情報社会とモラルについて学習し、情報リテラシーを身に付けます。 ・農業を支える情報を学習し、農業に応用できる情報を考える能力を養います。 ・コンピュータの物理的な構成を理解します。また、データや情報の表現方法を理解することで適切なソフトウェアを活用する能力を身に付けます。
	第2章 社会を支えるコンピュータ	
2	第2章 社会を支えるコンピュータ	・情報通信ネットワーク、インターネットに関する学習を行い、その特徴を理解します。 ・情報セキュリティに関する学習を行い、コンピュータウイルスやその他の脅威に関する学習を行い、その特徴を理解します。 ・正確な情報収集と記録の重要性及び情報の受け手に配慮してまとめることの重要性について学習し、情報を活用するソフトウェアについて理解を深め、活用する能力を身に付けます。
	第3章 コミュニケーションと情報デザイン	
3	第4章 スマート農業への展望	・スマート農業の目標としくみについて学習し、農業における情報システムの開発、設計の流れ及びプログラム設計の流れについて理解を深めます。 ・プロジェクト学習や発表を通して、総合的な情報活用能力を身に付けます。
	第6章 農業学習と情報活用	
課題	① 通常授業に関する課題…小テスト予習・復習、レポート作成、タイピング練習等 ② 夏季休業中課題…レポート作成、タイピング練習 ③ 冬季休業中課題…スマート農業に関するレポート作成、検定試験対策	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 私たちの生活と農業の情報化	情報化する社会において情報とメディアの特徴を理解し、情報を円滑に活用していく知識を身に付け、情報モラルを身に付けている。また、農業を支える情報の存在を理解できている。	適切なメディアの活用方法を判断することができる。また、情報モラルを遵守することの重要性を思考し、情報リテラシーを理解した上で自らの意見を表現している。農業を支える情報の存在を考え表現している。	情報化社会の進展と情報の意義に関心を持ち、農業と情報技術との関わりについて探求しようとしている。

評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第2章 社会を支えるコンピュータ	コンピュータの基本的な構成を理解している。また、情報通信ネットワークやインターネットの特徴を知り、情報セキュリティに留意した情報活用技術を身に付けている。	コンピュータの基本構造を理解した上で、情報通信ネットワークやインターネットにおける留意点を思考し、判断できている。情報セキュリティを理解し、場面に応じて判断できる。	コンピュータの構造について主体的に理解しようと努め、情報モラルについて科学的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第3章 コミュニケーションと情報デザイン	情報の受け手に配慮した正確な情報収集と記録の重要性を理解している。また、各種ソフトウェアの内容を理解し、活用技術を身に付けている。	正確な情報収集と記録の重要性について思考し、判断できている。場面に応じてソフトウェアの活用方法を使い分けることができる。	情報表現とソフトウェアの活用について主体的に理解しようと努め、各種ソフトウェアの活用技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技、発表内容	課題への取組、授業態度、発言内容、検定への取組
第4章 スマート農業への展望	スマート農業のしくみや目標を理解している。また、システム開発やプログラム設計のしくみを理解し、活用技術を身に付けている。	スマート農業の有用性を理解し、実際の農業現場における活用方法について思考し、考えを表現できている。	実際の農業現場における課題を認識し、情報技術を活用した解決方法について科学的に探究しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査	小テスト、定期考査、レポートの記述内容、発言内容	課題への取組、レポート、ワークシートへの記述内容、授業態度、発言内容
第6章 農業学習と情報活用	農業学習とプロジェクト学習において活用できる、情報処理技術を身に付けている。	農業学習の特徴を理解した上で、プロジェクト学習に必要な情報活用技術について思考し、判断、表現できている。	プロジェクト学習に主体的に取り組み、プロジェクト学習における情報処理技術について探求しようとしている。
評価方法	発表内容、定期考査	発表準備・内容、定期考査、ワークシートの記述内容	課題への取組、レポート、授業態度、発言内容
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（野菜）	単位数	4
学 年	2 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①野菜を栽培する体験的な学習を通して、専門的な技術を学習し、1年次より進んだ知識や技術を習得します。 ②栽培管理技術や知識、野菜の商品化や流通の理解を深めるとともに、農業経営の実践的能力の基礎を学びます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 春～夏の野菜	・夏野菜（主として果菜類）の定植、灌水、追肥等の一般管理と収穫・商品化について学びます。
2	2 秋～冬の野菜	・秋野菜（主として葉菜類・根菜類）の播種、定植、灌水、追肥等の一般管理と収穫や商品化について学びます。
3	3 冬～春の野菜	・冬野菜（主として葉菜類）の一般管理と収穫や商品化について学びます。 ・播種、鉢上げ等育苗管理全般について学習します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出 ②夏休み課題…指定された日に3回程度、各3時間実習 ③冬休み課題…指定された日に1回、各4時間実習 ④その他…各種発表校内大会出場に向けたプロジェクト活動	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	- 植物の育成や栽培環境における基礎的な知識を持ち、各野菜に応じた栽培管理の適期・方法について理解している。 - 作業を正確かつ丁寧におこなうことができる。 - 器具を正しく利用することができる。	- 園芸作物ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解し、実習記録簿や調査用紙において自らの考えが反映できている。 - 栽培管理に関する基礎的な技術を身に付け、実験・実習に創意工夫が見られる。	- 集合・移動が迅速に行える。 - 服装が整っている。 - 道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 - 実習に積極的に参加できる。 - 友人と協力して作業が行える。 - 植物に対して愛情を持って接することができる。
評価方法	- 定期考査 - 毎回の実習への取組の記録。	- 定期考査 - 実習ノート・レポート等の提出物が内容の基準をクリアし、期限までに提出できる。 - 毎回の実習に対する取組の記録。	毎回の実習に対する取組の記録（出欠・服装等を含む）。
農業クラブ活動	- 農業鑑定競技の内容を理解している。 - プロジェクト活動の意義・目的を理解している。	- 意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができる。 - プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができる。	農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。

評価方法	・ 農業鑑定競技への取組 ・ 農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・ 意見発表への取組	・ 期日までに提出物を出すことができる。 ・ 農業鑑定競技学習ノートが整理されている。
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において「定期考査」「課題やワークシート、ノートの提出状況」「授業への取組」「出席状況」等をもとに、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（草花）	単位数	4
学 年	2 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①春まき及び秋まき一年草を栽培し、各草花の特徴や栽培方法・管理作業について、基礎的な知識や技術を習得します。 ②草花の繁殖方法について、種子繁殖と栄養繁殖の知識と技術を習得します。 ③施設を利用した草花栽培に必要な知識と技術を習得します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 春まき一年草の栽培管理 (播種・鉢上げ・施肥・鉢替え)	・草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
	2 春の草花の管理 (出荷準備)	・作業の目的を確認して作業に取り組むとともに、各草花の名称や品種の特徴を学びます。
2	3 秋まき一年草の栽培管理 (播種・鉢上げ・施肥・鉢替え)	・草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
	4 冬の草花の管理	・冬季における草花の栽培管理及び施設栽培について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
3	5 鉢物草花の管理	・鉢物草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。 ・草花を施設栽培する際に必要な環境条件や作業内容について学びます。
課題	① 予習・復習…毎回実施した内容を記録簿にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…指定した日に3回、各3時間の実習をします。 ③ 冬休み課題…指定した日に3回、各3時間の実習をします。 ④ そ の 他…実習報告書（レポート）を作成して提出します。 農業クラブ活動（農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表）に取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・栽培品目ごとの特徴を理解し、作業を正確に行うことができる。 ・生産物であることを理解し、作業を丁寧に行うことができる。 ・器具を正しく利用することができる。	・作業を効率よく行うことができる。 ・実習ノートに管理作業の要点をまとめ、自らの考察が加えられている。 ・次の作業を自ら考え、実践することができる。	・集合、移動、後片付けが迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・期日までに提出物を出すことができる。 ・主体的かつ積極的に活動している。 ・友人と協力して作業が行える。
評価方法	・実習への取組 ・ノートへの記述内容 ・定期考査 ・レポートへの取組	・実習への取組 ・ノートへの記述内容 ・定期考査 ・レポートへの取組	・実習への取組 ・ノートへの記録 ・レポートへの取組
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・日々の学習内容を正し	・意見発表の原稿に、日々の学習内容をもとに自らの考えをまとめて意	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。

	く理解し、意見発表の原稿に記すことができる。	見を述べることができる。	・期日までに提出物を出すことができる。
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・意見発表への取組	・意見発表への取組	・農業クラブ活動への取組の記録（農業鑑定競技、意見発表、プロジェクト発表）
内容のまとまりごとに、学習目標の達成度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（果樹班）	単位数	4
学 年	2 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①園芸流通科の基幹的作物である果樹のうち、落葉果樹の栽培体験を通して、1年次の内容より進んだ知識や技術を習得します。 ②並行して学習する科目「果樹」の中で学ぶブドウの栽培管理技術についての理解や深化を深めるとともに、販売までの実践的能力の基礎を習得します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 草刈機を用いた除草	・落葉果樹（カキ・モモ・ブドウ等）の区分や栽培品種を理解します。 ・草刈機の操作方法や各時期（春先、梅雨、夏）の土壌管理について理解します。
	2 摘果、袋かけ（カキ・モモ・ナシ）	・カキ・モモ等の摘果やモモ・ナシ・ブドウの袋かけ作業を体験します。
	3 出荷調整（モモ・ブルーベリー等）	・モモ・ブドウやブルーベリーの出荷方法について学習します。
2	4 夏草の除草、かん水	・除草剤や草刈機・除草グワを使用した除草を行います。
	5 出荷調整（ブドウ・カキ・ナシ）	・カキ・ナシ等の防鳥対策や、収穫や選別について学習します。
	6 防鳥対策、施肥（お礼肥、元肥）	・樹勢回復や来年の安定した結実のため、お礼肥や元肥を施します。
3	7 土壌改良	・土壌改良を目的とした深耕や苦土石灰の施用を体験します。
	8 せん定	・落葉果樹全般のせん定を行い、剪定枝は、枝処理機で粉碎します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…指定された日に3回、各3時間実習します。 ③冬休み課題…指定された日に1回、各3時間実習します。 ④その他 …各種発表校内大会出場に向け、プロジェクト研究を実施します	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取り組み	・農場で栽培している果樹やその品種を答えられる。 ・道具や農薬等の名称を覚えている。 ・道具を正しく使用し、なおかつ丁寧に扱うことができる。 ・一度行った実習は次回指示をしなくても準備物等を準備し、実習に取り組むことができる。	・果樹やその品種によって栽培管理方法が違うことを理解し、管理ができる。 ・管理の目的を理解し実習に取り組むことができる。 ・自分がどのように動けば効率よく仕事ができるか工夫し動くことができる。	・積極的に記録簿を記入する。 ・準備を自ら行うことができる。 ・課題に積極的に取り組むことができる。

農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・プロジェクト活動の意義 ・目的を理解している。	・意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができる。 ・プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。
評価方法	・実習中の態度や行動 ・定期考査	・実習レポート ・発言 ・実習中の態度や行動 ・定期考査 ・実習手帳	・実習レポート ・発言 ・実習中の態度や行動 ・定期考査 ・実習手帳
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	野菜	単位数	2
学 年	2 年	教科書	野菜（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を実験・実習・調査研究活動等から学びます。 ②野菜の特性や栽培に適した環境を知るとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を学びます。 ③野菜の収穫・商品化・販売を体験し、流通に関する知識と技術を学びます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 メロンの栽培	・メロンの特性について学習します。 ・メロンの栽培管理を行います(誘引、受粉、玉つり、袋掛け)。 ・生育調査を行います。 ・収量調査、品質調査を行います。
2	2 キャベツ・ブロッコリーの栽培	・キャベツ・ブロッコリーの特性、畑の準備、定植について学習します。 ・キャベツ・ブロッコリーの栽培管理を行います。(水やり、追肥、除草、間引き、土寄せなど) ・生育調査を行います。 ・収穫、収量調査、品質調査を行います。
3	3 農業経営プロジェクトの計画	・3年生より、野菜の生産から販売までを一貫して体験する学習を行うために、次の計画を立てます。 ①作目 ②栽培面積 ③栽培時期 ④栽培方法 ⑤その他
課題	①予習・復習・・・毎回実施した実習内容をプリントにまとめて提出 ②夏休み課題・・・メロン栽培についてのレポートを作成 ③冬休み課題・・・キャベツ、ブロッコリー栽培についてのレポートを作成	

評価の観点 評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
メロンの栽培	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や着花習性などを理解し、栽培管理のポイントについて体験を通して理解できたか。 ・メロンの着花習性を観察できたか。 ・病虫害や生理障害を的確に観察できたか。	・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べて理論的に考えることができたか。 ・作型が現在のように分化してきた理由を考えることができたか。 ・栽培の評価が理論的に行えたか。	・教材として取り上げたメロンの特性を理解しようとしたか。 ・メロンの生育に関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理を行ったか。 ・実践課題について問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組んだか。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・管理作業が的確に行えているか。	・定期考査 ・レポートに的確にまとめられている。	・人工授粉を毎日行えた。 ・整枝・誘引を適期に行えている。 ・丁寧に観察記録が行えている。
キャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの栽培	・生育に適する温度・光・水分などの環境条件や花芽分化などを理解し、栽培管理	・栽培管理に関して、なぜそのような管理方法をとるのかということ、野菜の特性と比べ	・教材として取り上げたキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの特性を理解しようとしたか。

	のポイントについて体験を通して理解できたか。 ・定植、適期収穫、病害虫の防除、肥培管理等が的確に行えたか。 ・次亜塩素酸水やコンパニオンプランツの利用に関する実験や調査が的確に行えたか。 ・病害虫や生理障害を的確に観察できたか。	て理論的に考えることができたか。 ・作型が現在のように分化してきた理由を考えることができたか。 ・次亜塩素酸水やコンパニオンプランツの効果を検証できたか。	・教材の生育に対して関心を持ち、意欲的に観察や栽培管理（灌水等）を行ったか。 ・実践課題について、課題を積極的に見だし、意欲的に取り組んだか。 ・害虫駆除を積極的行えたか。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・管理作業が的確に行えているか。	・定期考査 ・レポートに的確にまとめられている。	・丁寧に観察記録が行えている。 ・灌水や害虫駆除を定期的に行えている。
農業経営プロジェクトの計画	・植物の特性と生育環境を理解し、栽培の計画を立てることができたか。	・効果的に販売をするための工夫が計画にされているか。	・班員と協力して、計画を立てることができたか。 ・班員と協力して、栽培準備に取り組めたか。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・管理作業が的確に行えているか。	・定期考査 ・畑を有効に活用できているか。	・畑づくりや播種・定植を適期に行えている。 ・日々の管理を協力して行えている。
各単元の目標の到達度を、3つの観点から、「定期考査」「課題やワークシート、ノートの提出状況」「授業への取組（実習）」「出席状況」等をもとに総合的に評価します。			

教 科	農 業	科 目	草 花	単位数	2
学 年	2 年	教科書	草花（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①草花園芸に必要な知識と技術を実習・プロジェクト学習等から学びます。 ②盆栽菊とロケット菊の栽培を通して、草花の栽培管理技術を習得します。 ③草花の商品化・販売を体験して、経営と流通に関する知識と技術を学びます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 春まき一年草の栽培	・春まき一年草の特性について学習し、栽培管理（播種、鉢上げ、追肥等）を行います。
	2 秋ギク栽培プロジェクト	・盆栽菊とロケット菊の栽培管理（鉢上げ、鉢替え、摘心、誘因等）を行います。
2	2 秋ギク栽培プロジェクト	・盆栽菊とロケット菊の特性について学習し、栽培管理（摘心、誘因、追肥、開花調整等）を行うとともに、農業祭等で展示します。
	3 秋まき一年草の栽培	・生育調査を行います。
3	4 鉢ものの生産	・秋まき一年草の特性について学習し、栽培管理（播種、鉢上げ、追肥等）を行います。
		・カーネーション、シネリリアの栽培管理を行います。
課題	①予習・復習・・・実習内容をプリントにまとめて提出 ②夏休み課題・・・盆栽菊とロケット菊の管理、レポートを作成 ③冬休み課題・・・秋まき一年草の栽培についてレポートを作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
春まき一年草の栽培	・草花の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・草花の種類ごとに適した管理作業が的確にできる。	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・春まき一年草の種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・発問への対応	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度
秋ギク栽培プロジェクト	・秋ギクの種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・定植、摘心、誘因、追肥等の管理作業が的確にできる。	・ロケット菊の生育特性を理解した上で、目標とする草姿に仕立てるための管理計画が立案・実施されている。 ・盆栽菊の生育特性を理解した上で、目標とする草姿を構想し、実現に向けて管理作業がで	・秋ギクの種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。 ・班ごとに管理計画を立案し、協力して活動を実施することができている。

		きている。	
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントへの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・秋ギクの仕立て状況 ・レポートの内容	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度 ・班活動の取組
秋まき一年草の栽培	・草花の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・草花の種類ごとに適した管理作業が的確にできる。	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・秋まき一年草の種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・発問への対応 ・レポートの内容	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度 ・管理作業を定期的に行っている。
鉢ものの生産	・草花の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・草花の種類ごとに適した管理作業が的確にできる。 ・生産体系や作型による経営特性について理解できている。	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・鉢花の種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・発問への対応 ・レポートの内容	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	果 樹	単位数	2
学 年	2 年	教科書	果樹（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	果樹（ブドウを主体）の栽培について体験的、探求的な学習を通して、落葉果樹の特性や生理を知り、生産性の向上を図る能力や態度を身に付けます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 ブドウの栽培プロジェクト (1)栽培上の特性と品種 (2)新梢・花の管理 (3)ホルモン処理 (4)摘粒・整形・袋かけ (5)病害虫・鳥害対策	・ブドウ栽培特性や品種の特性を理解します。 ・枝、葉、花の成長を観察します。 ・結果習性を理解し、高品質の果実生産にするための管理方法を学習します。 ・無核化の要領について理解します。 ・摘粒の目的を調べ、形の良いブドウにするための方策を学習します。 ・被害状況を観察し、対策を検討します。
2	(6)収穫・選別、品質調査 (7)プロジェクトのまとめ (8)土壌、肥培管理 (9)落葉処理 2 カキの防鳥対策、出荷調整	・出荷のための選果や調整を行います。 ・生育調査、品質調査の結果をまとめます。 ・樹勢回復や来年の安定した結実のため、苦土石灰や元肥を施します。 ・カキの防鳥対策や、収穫・選別について学習します。
3	3 ブドウの冬季管理 (1)せん定 (2)粗皮削り 4 落葉果樹のせん定枝の処理	・ブドウの各品種に応じたせん定や、粗皮削りを行います。 ・深耕を行い、剪定枝を土中に埋めます。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容をプリントに丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…ブドウの栽培プロジェクトの1学期分をまとめて提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ブドウの栽培プロジェクト	・座学や実習で学んだ管理方法を適切に行うことができる。 ・品種ごとの特性を理解している。	・栽培管理の目的を的確に理解し、状況に応じて管理を行うことができる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。
評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言
カキの防鳥対策 出荷調整	・座学や実習で学んだ管理方法を適切に行うことができる。 ・防鳥対策において必要な道具や設置方法を理解している。	・他の果樹においても必要となってくる防鳥対策について理解し、カキ以外の果樹でも応用ができる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。

評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言
ブドウの冬季管理	・ブドウの冬季管理に必要な粗皮削り、剪定、信仰処理について理解できる。	・冬季管理について理解し、他の果樹における冬季管理にも応用できる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。
評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言

教 科	農 業	科 目	農業経営	単位数	2
学 年	2 年	教科書	農業経営（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	反復式 学習と検定 簿記問題集 全商 3 級 改訂版		

学習目標	①我が国における農業経営の実態と特徴を理解し、企業経営との違いを理解します。 ②複式簿記による基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解し、基本的な農業経営診断ができるようにします。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業の動向と農業経営	・日本における農業経営の実態と特徴を理解し、新たにみられるようになった農業経営の体系と取組を知ります。
	2 農業経営の組織と運営	・多様な農業経営の体系を知り、農業経営組織の組み立てについて理解します。 ・農業経営者に必要な資質・能力を理解し、経営者がどのような理由で事業を選択するかについて考えます。
2	3 農業経営の会計 ・簿記の基礎 ・各種取引の記帳と決算	・農業経営における各種取引の記帳方法を理解します。 ・複式簿記による、基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解します。 ・農業経営における各種の取引の記帳法を学習し、決算整理を含んだ決算手続きについて理解します。
3	4 農業経営の診断と設計	・農業経営診断の手順や診断のポイント、重要性について理解し、自分で診断してみる。 ・農業経営の設計手順と、さまざまな設計方法を理解し、農業経営改善を考える。
課題	①予習・復習…授業ごとに問題集を解きます。 ②夏休み課題…農業経営についての調べ学習をします。 ③冬休み課題…簿記実務検定の問題集を解きます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の動向と農業経営	・日本における農業経営の実態と特徴を理解している。 ・新しい農業経営体系とその取組について理解している。	・今までの農業経営の実態と特徴から新たにみられるようになった農業経営の体系と取組について考えることができる。	・農業経営の実態と特徴を学習し、新たにみられるようになった農業経営体系とその取組について理解しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
農業経営の組織と運営	・農業経営組織の組み立てについて理解している。 ・農業経営者に必要な資質・能力を理解している。	・多様な農業経営体系を認識し、農業経営組織を組み立て、他者へ共有することができる。	・農業経営者に必要な資質・能力を身に付けようとしている。

評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	グループワーク、レポート、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
農業経営の会計	・農業経営における基本的な取引の記帳から決算までの流れを理解している。 ・各種取引の記帳方法が身に付いている。	・農業経営における各種取引の記帳ができる。 ・複式簿記による基本的な記帳から決算までの一連の処理を行うことができる。	・農業経営における基本的な記帳や決算方法を理解しようとしている。 ・各種取引の記帳方法を身に付けようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	定期考査、レポート、問題集への取組、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
農業経営の診断と設計	・農業経営診断の手順や診断の要点、重要性を理解している。 ・農業経営の設計手順や多様な設計方法を理解している。	・農業経営診断が適切にできる。 ・農業経営の設計手順や多様な設計方法から農業経営改善案を思案することができる。	・農業経営診断に主体的に取り組むことができる。 ・農業経営の設計手順や多様な設計方法を理解しようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業情報活用	単位数	2
学 年	2 年	教科書	自作教科書		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて、様々なデータを処理することができる能力を身に付けます。 ②情報機器を駆使して、プログラミング学習に取り組む態度と能力を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 生活の農業の情報化	- 生活の周りにある、情報通信機器や情報通信技術について学習し、その使用方法や役割について理解します。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する基礎的、基本的な知識を身に付け、ネットワーク犯罪に対する予防ができるようにします。
	2 コンピュータによる情報の活用	文書処理ソフトウェアを使用して、ビジネス文書を作成し、応用的な文書処理能力を養います。
2		- 表計算ソフトウェアを使用して、データ処理方法を学習し、データ分析方法を身に付けます。 - 画像・図形処理ソフトウェアを使用して、効果的な文書を作る方法を学習します。 - プレゼンテーションソフトウェアを使用して、説得力のあるスライドの作成、プレゼン方法を学習します。
3	3 農業情報の活用	- 農業の情報化や情報の活用について理解します。 - 機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てます。 - マクロとしてプログラミングを学びます。
課題	①予習・復習…授業ごとの課題をします。 ②夏休み課題…情報処理検定の課題をします。 ③冬休み課題…プレゼンテーションソフトウェアを用いた作品制作をします。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の農業の情報化	- 身の回りにある情報通信機器や情報通信技術について理解している。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を身に付けている。	- 情報通信機器を適切に使用できる。 - ネットワーク犯罪に対する予防方法を理解し、それを実行することができる。	- 情報通信機器や情報通信技術について理解しようとしている。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を用いて、ネットワーク犯罪に対する予防をしようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
コンピュータによる情報の活用	- 文書処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 - 表計算ソフトウェアの使用方法を理解してい	- 文書処理ソフトウェアを用いて、ビジネス文書を作成できる。 - 表計算ソフトウェアを用いて、データ分析が	各種ソフトウェアを用いて、主体的に製品作成に取り組んでいる。

	・画像・図形処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 ・プレゼンテーションソフトウェアの使用方法を理解している。	・画像・図形処理ソフトウェアを用いて、効果的な文書を作成できる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、効果的なスライドを作成できる。	
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	実技テスト、各種ソフトウェアを使用した作品制作、レポート、発問への応答等	授業への取組、実技テストへの取組、レポート、発問への対応等
農業情報の活用	・農業の情報化や情報の活用について理解している。 ・プログラミング学習としてマクロを理解している。	・情報機器を用いて、プログラミングが組める。 ・情報通信機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てることができる。	・農業の情報化や情報の活用について理解しようとしている。 ・情報機器を用いたプロジェクト学習の計画を協働的に立てることができる。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	定期考査、ワークシートマクロの内容、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	課題研究	単位数	3
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①農業の各分野について各自がテーマを設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図ります。 ②自らが取り組むことで、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育てます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 計画の立案	・安易な課題設定にならないように留意しながら、テーマに沿った年間計画を立案します。
	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
2	2 研究の実践	・計画を確認し、調査、研究、実験、実践、検証等を行います。
3	3 発表・報告	・研究の内容や結果をまとめ分析します。
		・課題研究発表会で研究内容を紹介し、研究成果を報告します。 ・レポート作成の方法を習得します。
課題	① 予習・復習…毎回実施した内容を記録簿にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…必要に応じて実習をします。 ③ 冬休み課題…必要に応じて実習をします。 ④ そ の 他…研究報告書（レポート）を作成して提出します。 農業クラブ活動（農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表）に取り組みます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題研究への取組	・各科目で学習した知識と技術を活用して課題解決に取り組むことで、高度な知識と技術を深化・総合化し、全体を体系的・系統的に理解し、身に付けることができる。	・学習の目的や課題を意識しながら計画的に課題解決を図り、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決することができている。	・集合、移動、後片付けが迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・期日までに提出物を出すことができる。 ・主体的かつ協働的に活動している。
評価方法	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記述内容 ・レポートへの取組	・研究活動への取組 ・記録簿への記録 ・レポートへの取組
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・日々の学習内容を正しく理解し、意見発表の原稿に記すことができる。	・意見発表の原稿に、日々の学習内容をもとに自らの考えをまとめて意見を述べるができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。 ・期日までに提出物を出すことができる。
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・意見発表への取組	・意見発表への取組	・農業クラブ活動への取組の記録（農業鑑定競技、意見発表、プロジェクト発表）
内容のまとまりごとに、学習目標の達成度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（野菜）	単位数	3
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①野菜を栽培する体験的な学習を通して、専門的な技術を学習し、2年次より進んだ知識や技術を習得します。 ②栽培管理技術や知識、野菜の商品化や流通の理解を深めるとともに、農業経営の実践的能力の基礎を学びます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 春～夏の野菜	・夏野菜（主として果菜類）の定植、灌水、追肥等の一般管理と収穫・商品化について学びます。
2	2 秋～冬の野菜	・秋野菜（主として葉菜類・根菜類）の播種、定植、灌水、追肥等の一般管理と収穫や商品化について学びます。
3	3 冬～春の野菜	・冬野菜（主として葉菜類）の一般管理と収穫や商品化について学びます。 ・播種、鉢上げ等育苗管理全般について学習します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出 ②夏休み課題…指定された日に3回程度、各3時間実習 ③冬休み課題…指定された日に1回、各4時間実習 ④その他…各種発表校内大会出場に向けたプロジェクト活動	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	- 植物の育成や栽培環境における基礎的な知識を持ち、各野菜に応じた栽培管理の適期・方法について理解している。 - 作業を正確かつ丁寧にこなうことができる。 - 器具を正しく利用することができる。	- 園芸作物ごとの特徴や栽培方法の違いについて理解し、実習記録簿や調査用紙において自らの考えが反映できている。 - 栽培管理に関する基礎的な技術を身に付け、実験・実習に創意工夫が見られる。	- 集合・移動が迅速に行える。 - 服装が整っている。 - 道具を大切に取り扱い、後片付けができる。 - 実習に積極的に参加できる。 - 友人と協力して作業が行える。 - 植物に対して愛情を持って接することができる。
評価方法	- 定期考査 - 毎回の実習への取組の記録。 - 実習内容	- 定期考査 - 実習ノート・レポート等の提出物が内容の基準をクリアし、期限までに提出できる。 - 毎回の実習に対する取組の記録。	毎回の実習に対する取組の記録（出欠・服装等を含む）。
農業クラブ活動	- 農業鑑定競技の内容を理解している。 - プロジェクト活動の意義・目的を理解している。	- 意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができる。 - プロジェクト学習の内	- 農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。

	る。	容を的確にまとめることができる。	
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。	・意見発表への取組	・期日までに提出物を出すことができる。 ・農業鑑定競技学習ノートが整理されている。
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において「定期考査」「課題やワークシート、ノートの提出状況」「授業への取組」「出席状況」等をもとに、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（草花）	単位数	3
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①カーネーションやシクラメン等を栽培し、各草花の特徴や栽培方法・管理作業について、必要な知識や技術を習得します。 ②施設を利用した草花栽培に必要な知識や技術を習得します。 ③草花の多面的な利用方法について、必要な知識や技術を習得します。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 カーネーションの管理	・草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
	2 春の草花の管理 （出荷準備）	・作業の目的を確認して作業に取り組むとともに、各草花の名称や品種の特徴を学びます。
2	3 シクラメンの管理	・草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
	4 冬の草花の管理	・冬季における草花の栽培管理及び施設栽培について学び、実際の栽培で活用できるようになります。
3	5 サイネリアの管理	・鉢物草花の名称や特徴、栽培方法・管理作業について学び、実際の栽培で活用できるようになります。 ・草花を施設栽培する際に必要な環境条件や作業内容について学びます。
課題	① 予習・復習…毎回実施した内容を記録簿にまとめて提出します。 ② 夏休み課題…指定した日に3回、各4時間の実習をします。 ③ 冬休み課題…指定した日に3回、各4時間の実習をします。 ④ そ の 他…実習報告書（レポート）を作成して提出します。 農業クラブ活動（農業鑑定、意見発表、プロジェクト発表）に取り組めます。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取組	・栽培品目ごとの特徴を理解し、作業を正確に行うことができる。 ・生産物であることを理解し、作業を丁寧に行うことができる。 ・器具を正しく利用することができる。	・作業を効率よく行うことができる。 ・実習ノートに管理作業の要点をまとめ、自らの考察が加えられている。 ・次の作業を自ら考え、実践することができる。	・集合、移動、後片付けが迅速に行える。 ・服装が整っている。 ・期日までに提出物を出すことができる。 ・主体的かつ積極的に活動している。 ・友人と協力して作業が行える。
評価方法	・実習への取組 ・ノートへの記述内容 ・定期考査 ・レポートへの取組	・実習への取組 ・ノートへの記述内容 ・定期考査 ・レポートへの取組	・実習への取組 ・ノートへの記録 ・レポートへの取組
農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・日々の学習内容を正し	・意見発表の原稿に、日々の学習内容をもとに自らの考えをまとめて意	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができている。

	く理解し、意見発表の原稿に記すことができる。	見を述べることができる。	・期日までに提出物を出すことができる。
評価方法	・農業鑑定競技への取組 ・意見発表への取組	・意見発表への取組	・農業クラブ活動への取組の記録（農業鑑定競技、意見発表、プロジェクト発表）
内容のまとまりごとに、学習目標の達成度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習（果樹班）	単位数	3
学 年	3 年	教科書	なし		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①園芸流通科の基幹的作物である果樹のうち、常緑果樹の栽培体験を通して、2年次の内容より進んだ知識や技術を習得します。 ②並行して学習する科目「果樹」の中で学ぶカンキツの栽培管理技術についての理解や深化を深めるとともに、販売までの実践的能力の基礎を習得します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 草刈機を用いた除草	・常緑果樹（カンキツ類）の区分や栽培品種を理解します。 ・草刈機の操作方法や各時期（春先、梅雨、夏）の土壌管理について理解します。
	2 カンキツ摘果、袋かけ（カキ・モモ・ナシ）	・カンキツ類の摘果や落葉果樹モモ・ナシ・ブドウの袋かけ作業を学習します。
	3 出荷調整（モモ・ブルーベリー等）	・モモ・ブドウやブルーベリーの出荷方法について学習します。
2	4 夏草の除草、かん水	・除草剤や草刈機・除草グワを使用した除草を行います。
	5 カンキツ収穫出荷調整	・カンキツ類の収穫や選別、出荷について学習します。
	6 施肥（お礼肥、元肥）	・樹勢回復や来年の安定した結実のため、お礼肥や元肥を施します。
3	7 土壌改良	・土壌改良を目的とした深耕や苦土石灰の施用を体験します。
	8 せん定	・常緑果樹全般のせん定を行い、剪定枝は、枝処理機で粉碎します。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容を記録簿に丁寧にまとめて提出します。 ②夏休み課題…指定された日に3回、各3時間実習します。 ③冬休み課題…指定された日に1回、各3時間実習します。 ④その他 …各種発表校内大会出場に向け、プロジェクト研究を実施します	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合実習への取り組み	・農場で栽培している果樹やその品種を答えられる。 ・道具や農薬等の名称を覚えている。 ・道具を正しく使用し、なおかつ丁寧に扱うことができる。 ・一度行った実習は次回指示をしなくても準備物等を準備し、実習に取り組むことができる。	・果樹やその品種によって栽培管理方法が違うことを理解し、管理ができる。 ・管理の目的を理解し実習に取り組むことができる。 ・自分がどのように動けば効率よく仕事ができるか工夫し動くことができる。	・積極的に記録簿を記入する。 ・準備を自ら行うことができる。 ・課題に積極的に取り組むことができる。

農業クラブ活動	・農業鑑定競技の内容を理解している。 ・プロジェクト活動の意義と目的を理解している。	・意見発表の原稿に、自らの考えをまとめることができる。 ・プロジェクト学習の内容を的確にまとめることができる。	・農業クラブ活動に主体的に取り組むことができる。
評価方法	・実習中の態度や行動 ・定期考査	・実習レポート ・発言 ・実習中の態度や行動 ・定期考査 ・実習手帳	・実習レポート ・発言 ・実習中の態度や行動 ・定期考査 ・実習手帳
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業情報活用	単位数	2
学 年	3 年	教科書	自作教科書		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて、様々なデータを処理することができる能力を身に付けます。 ②情報機器を駆使して、プログラミング学習に取り組む態度と能力を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 生活の農業の情報化	- 生活の周りにある、情報通信機器や情報通信技術について学習し、その使用方法や役割について理解します。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する基礎的、基本的な知識を身に付け、ネットワーク犯罪に対する予防ができるようにします。
	2 コンピュータによる情報の活用	文書処理ソフトウェアを使用して、ビジネス文書を作成し、応用的な文書処理能力を養います。
2		- 表計算ソフトウェアを使用して、データ処理方法を学習し、データ分析方法を身に付けます。 - 画像・図形処理ソフトウェアを使用して、効果的な文書を作る方法を学習します。 - プレゼンテーションソフトウェアを使用して、説得力のあるスライドの作成、プレゼン方法を学習します。
3	3 農業情報の活用	- 農業の情報化や情報の活用について理解します。 - 機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てます。 - マクロとしてプログラミングを学びます。
課題	①予習・復習…授業ごとの課題をします。 ②夏休み課題…情報処理検定の課題をします。 ③冬休み課題…プレゼンテーションソフトウェアを用いた作品制作をします。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の農業の情報化	- 身の回りにある情報通信機器や情報通信技術について理解している。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を身に付けている。	- 情報通信機器を適切に使用できる。 - ネットワーク犯罪に対する予防方法を理解し、それを実行することができる。	- 情報通信機器や情報通信技術について理解しようとしている。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を用いて、ネットワーク犯罪に対する予防をしようとしている。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	小テスト、定期考査、レポート、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
コンピュータによる情報の活用	- 文書処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 - 表計算ソフトウェアの使用方法を理解してい	- 文書処理ソフトウェアを用いて、ビジネス文書を作成できる。 - 表計算ソフトウェアを用いて、データ分析が	各種ソフトウェアを用いて、主体的に製品作成に取り組んでいる。

	・画像・図形処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 ・プレゼンテーションソフトウェアの使用方法を理解している。	・画像・図形処理ソフトウェアを用いて、効果的な文書を作成できる。 ・プレゼンテーションソフトウェアを用いて、効果的なスライドを作成できる。	
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	実技テスト、各種ソフトウェアを使用した作品制作、レポート、発問への応答等	授業への取組、実技テストへの取組、レポート、発問への対応等
農業情報の活用	・農業の情報化や情報の活用について理解している。 ・プログラミング学習としてマクロを理解している。	・情報機器を用いて、プログラミングが組める。 ・情報通信機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てることができる。	・農業の情報化や情報の活用について理解しようとしている。 ・情報機器を用いたプロジェクト学習の計画を協働的に立てることができる。
評価方法	小テスト、定期考査、ワークシートへの記入内容	定期考査、ワークシートマクロの内容、ノート記入、発問への応答等	授業への取組、レポート、発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	食品流通	単位数	2
学 年	3 年	教科書	食品流通（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と流通構造を理解させる。 ②食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度をそだてる。農業生物の育成と環境の保全についての体験的、探究的な学習を通して、農業および環境に関する興味・関心を高めます
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 現代生活と食品流通 2 経済活動と食料	・流通のなりたちを知り、流通とは何かを理解するとともに食品流通に求められる安定・安全・効率性を理解する。 ・所得水準と食料消費の関連を理解する。 ・日本の食料消費の変化と特徴を理解する。 ・食料生産・輸出入動向と貿易制度を理解する。
2	3 食品流通のしくみと働き 4 おもな食品の流通	・商品としての食品の特徴を理解し、流通経路の概要を知る。 ・卸売業者や小売業者の役割を理解する。 ・米の食品特性と流通を知る。 ・小麦粉の原料としての特性と、その製品について理解する。 ・青果物・畜産物・加工食品の流通を理解する。
3	5 食品マーケティング	・マーケティングの始まりと基本的な課題を理解する。 ・製品計画、販売計画、仕入れ計画の考え方を知り、それらの計画の立て方を理解する。
課題	① 定期考査後、解答用紙の誤答を訂正し、ノートに添付し提出する。 ② 夏期休業中の課題として、食品流通に関する新聞記事等の切り抜き、または流通に関する紙媒体をレポート用紙に添付し、感想を書いて提出する。 ③ 冬期休業中の課題として、食品流通に関する新聞の切り抜き、または流通に関する紙媒体をレポート用紙に添付し感想を書いて提出する。	

評価の観点 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 食品流通を学ぶ	・食品流通の始まりと発展を身に付けている。 ・プロジェクトの進め方を理解し、身に付けている。	・食品流通についての科学的な根拠に基づいて創造的に課題を解決しようとしている。	・プロジェクト学習に必要な情報収集を主体的に行おうとしている。
2 食品流通とプロジェクト学習			
3 現代社会と食品流通	・私たちの生活と流通を理解するとともに、関連する知識を身に付けている。	・現代社会と食品流通についての学習をもとに仕組みを判断できる。 ・ノートやレポートに成果を適切にまとめることができる。	・調べ学習や調査・観察・記録などを継続的にを行い、その結果を分析・考察することができる。
4 経済活動と食料	・生産と消費のへだたりについての知識を身に付けている。 ・フードシステムに関する知識を身に付けている。	・生産活動と消費者のへだたりを理解し、その課題を発見し、発表したり、資料としてまとめたりすることができる。	・課題に対して科学的な判断をもとに流通に関する諸問題の解決の手立てを見つけ、行動しようとしている。
評価方法	・ペーパーテスト ・ワークシート ・実技の観察（実習）	・ワークシート ・記録簿 ・実習の様子	・レポート ・実習の様子 ・授業での発問 ・出欠状況

内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてABCの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。

教 科	農 業	科 目	草 花	単位数	2
学 年	3 年	教科書	草花（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①鉢花の栽培に必要な知識や技術を実習・プロジェクト学習等から習得します。 ②懸崖菊と大輪菊の栽培を通して、草花の栽培管理技術を習得します。 ③草花の多面的利用に必要な知識や技術を実習・プロジェクト学習等から習得します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 生活と草花の利用	・草花の多面的利用について学習し、製作活動や交流活動等を行います。
	2 秋ギク栽培プロジェクト	・懸崖菊と大輪菊の栽培管理（鉢上げ、鉢替え、摘心、誘因等）を行います。
2	2 秋ギク栽培プロジェクト	・懸崖菊と大輪菊の特性について学習し、栽培管理（摘心、誘因、追肥、開花調整等）を行うとともに、農業祭等で展示します。
	3 鉢ものの生産	・生育調査を行います。 ・鉢花の特性について学習し、シクラメンやサイネリア等の栽培管理（鉢上げ、追肥、開花調整等）を行います。
3	4 草花経営の改善	・草花の生産、流通、販売上の問題点を知り、経営や環境保全、地域社会との関係について学習します。
課題	①予習・復習・・・実習内容をプリントにまとめて提出 ②夏休み課題・・・懸崖菊と大輪菊の管理、レポートを作成 ③冬休み課題・・・懸崖菊と大輪菊の栽培についてレポートを作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋ギク栽培プロジェクト	・秋ギクの種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・定植、摘心、誘因、追肥等の管理作業が的確にできる。	・懸崖菊と大輪菊の生育特性を理解した上で、目標とする草姿に仕立てるための管理計画が立案・実施されている。	・秋ギクの種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。 ・班ごとに管理計画を立案し、協力して活動を実施することができている。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントへの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・秋ギクの仕立て状況 ・レポートの内容	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度 ・班活動の取組
鉢ものの生産	・草花の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・草花の種類ごとに適した管理作業が的確にできる。	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・鉢花の種類や特性に関心を持ち、的確な栽培管理技術の習得に向けて探求しようとしている。

	・生産体系や作型による経営特性について理解できている。		
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・発問への対応 ・レポートの内容	・実習への取組 ・プリントの記入内容 ・授業態度
生活と草花の利用	・草花の利用意義や用途について理解できている。 ・草花利用に必要な知識や技術を習得し、作業が的確にできる。	・草花の利用に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・諸活動を通しての気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・草花の多面的利用に関心を持ち、知識・技術の習得に向けて探求しようとしている。 ・他者と協同しながら活動を実施することができている。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・実習への取組 ・発問への対応 ・プリントの記入内容	・実習への取組 ・プリントへの記入内容 ・授業態度
草花経営の改善	・持続可能な草花経営の在り方について理解できている。	・草花経営の課題について科学的に考え、気づきや疑問点を記録にまとめることができる。	・草花経営と社会との関係に関心を持ち、知識・技術の習得に向けて探求しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・発問への対応 ・プリントの記入内容	・プリントへの記入内容 ・授業態度
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	野菜	単位数	2
学 年	3 年	教科書	野菜（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	①野菜の栽培と経営に必要な知識と技術を実験・実習・調査研究活動等から学びます。 ②野菜の特性や栽培に適した環境を知るとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を学びます。 ③野菜の収穫・商品化・販売を体験し、流通に関する知識と技術を学びます。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 野菜栽培の実際	・クラスを6～7班程度に分け、各班がそれぞれ選択した野菜を栽培します。 ・春まき野菜の管理作業を学習します。
2	2 野菜栽培の実際	・クラスを6～7班程度に分け、各班がそれぞれ選択した野菜を栽培します。 ・秋まき野菜の管理作業を学習します。
3	3 野菜経営の改善	・野菜の栽培、流通、販売上の問題点を知り、経営や環境保全、地域社会との関係について学習します。
課題	①予習・復習・・・毎回実施した実習内容をプリントにまとめて提出。 ②夏休み課題・・・春まき野菜栽培の評価、秋まき野菜の計画。 ③冬休み課題・・・春まき、秋まき野菜の計画と実施についてのレポート	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜栽培の実際	・春まき野菜の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・播種、定植、誘因、追肥等の管理作業が的確にできる。	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気付きや疑問点を記録にまとめることができる。 ・効果的に販売をするための工夫がされている。	・栽培する野菜の特性を理解しようとしたか。 ・班ごとに管理計画を立案し、協力して活動を実施していたか。 ・実践課題について問題や課題を積極的に見だし、意欲的に取り組んだか。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・管理作業が的確に行えているか。	・定期考査 ・レポートに的確にまとめられている。	・整枝・誘引・追肥等を適期に行えている。 ・丁寧に観察記録が行えている。
野菜栽培の実際	・秋まき野菜の種類、生育に適する環境条件、生理特性などを理解し、栽培管理の要点について理解できている。 ・播種、定植、誘因、	・栽培管理に関して、知識に基づいて科学的に考え行動することができている。 ・栽培管理を通しての気付きや疑問点を記録にまとめることができ	・栽培する野菜の特性を理解しようとしたか。 ・班ごとに管理計画を立案し、協力して活動を実施していたか。 ・実践課題について問題や課題を積極的に見いだ

	追肥等の管理作業が 的確にできる。	る。 ・効果的に販売をするた めの工夫がされてい る。	し、意欲的に取り組んだ か。
評価方法	・定期考査 ・実習への取組 ・管理作業が的確に行 えているか。	・定期考査 ・レポートに的確にまと められている。	・丁寧に観察記録が行えて いる。 ・灌水や害虫駆除を定期的 に行えている。
野菜経営の改善	・持続可能な野菜経営 の在り方について理 解できている。	・野菜経営の課題につい て科学的に考え、気付 きや疑問点を記録にま とめることができる。	・野菜経営と社会との関係 に関心を持ち、知識・技 術の習得に向けて探究し ようとしている。
評価方法	・定期考査 ・プリントの記入内容	・定期考査 ・発問への対応 ・プリントの記入内容	・プリントの記入内容 ・授業態度
各単元の目標の到達度を、3つの観点から、「定期考査」「課題やワークシート、ノートの提出状況」「授業への取組（実習）」「出席状況」等をもとに総合的に評価します。			

教 科	農 業	科 目	果 樹	単位数	2
学 年	3 年	教科書	果樹（実教出版）		
学 科	園芸流通科	副教材	なし		

学習目標	果樹（カンキツを主体）の栽培について体験的、探求的な学習を通して、常緑果樹の特性や生理を知り、生産性の向上を図る能力や態度を身に付けます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	温州ミカンの栽培プロジェクト 1 栽培上の特性と品種 2 新梢・花の管理 3 生育調査、果実肥大調査 4 土壌管理 5 摘果 6 病害虫対策	・カンキツの栽培特性や品種の特性を理解します。 ・枝、葉、花の成長を観察します。 ・結果習性を理解し、高品質の果実生産にするための管理方法を学習します。 ・無核化の要領について理解します。 ・摘粒の目的を調べ、形の良いブドウにするための方策を学習します。 ・被害状況を観察し、対策を検討します。
2	7 仕上げ摘果 8 枝つり、支柱立て 9 土壌管理と施肥 10 品質調査 11 収穫・出荷調整 12 プロジェクトのまとめ	・葉果比を調べ、肥大の具合を観察します。 ・樹勢回復や来年の安定した結実のため、秋肥（お礼肥）を施します。 ・糖度測定や酸度測定を行います。 ・収穫、出荷、調整を行います。 ・生育調査、品質調査の結果をまとめます。
3	13 土作り 14 植え付け準備	・土壌改良の目的で、苦土石灰の施用と深耕を行います。 ・間伐・移植や苗木の定植のための準備を行います。
課題	①予習・復習…毎回実施した実習内容をプリントに丁寧にまとめて提出します。 ②冬休み課題…ミカンの栽培プロジェクトの1、2学期分をまとめて提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ミカンの栽培プロジェクト	・座学や実習で学んだ管理方法を適切に行うことができる。 ・品種ごとの特性を理解している。	・栽培管理の目的を的確に理解し、状況に応じて管理を行うことができる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。
評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言
ミカンの収穫 出荷調整	・座学や実習で学んだ管理方法を適切に行うことができる。 ・収穫において必要な道具や方法を理解している。	・他の果樹においても必要となってくる出荷調整について他の果樹でも応用ができる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。
評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言

ミカンの冬季管理	・ミカンの冬季管理に必要な土壌管理、せん定について理解できる。	・冬季管理について理解し、他の果樹における冬季管理にも応用できる。	・座学、実習共に興味や関心を示し、意欲的に取り組む姿勢や態度が見られる。
評価方法	定期考査	定期考査	実習態度 発言